

2016年度第3四半期決算説明会



2017年1月31日

1. 2016年度第3四半期決算実績概要



2016年度第3四半期実績(2016.4.1 - 2016.12.31) <対前年同期実績>



ポイント 減収減益

(+/-, +/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	▲2,539	:-	都市ガス	(▲2,111:原料費調整に伴う単価減等▲2,310、数量増+185)	
			-	エネルギー関連	(▲685:エンジニアリングソリューション▲259(工事量減等)、器具▲202(ガスター連結除外影響等)、LNG販売▲181(原油価格下落による販売単価減))
			+	電力	(+111:小売参入に伴う販売量増等)
営業費用	+1,535	:+	都市ガス原材料費等	(+1,627:フレーム影響等による単価減+1,732、数量増▲105)	
営業利益	▲1,003	:-	都市ガス	(▲798:ガス粗利▲498(うちスライド差▲547)、固定費増▲313)	
			-	エネルギー関連	(▲130:LNG販売▲63(うちスライド差▲61)、器具▲37、エンジニアリングソリューション▲22)
			-	電力	(▲64:減価償却費、小売販売経費増)
特別損益	+220	:+	減損損失	+191(当期0←前期191)	
				投資有価証券売却益	+29(当期29←前期0)

(単位: 億円)

	2016年度3Q	2015年度3Q	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	11,086	10,833	+253	+2.3%
電力販売量(百万kWh)	9,266	7,491	+1,775	+23.7%
売上高	10,860	13,399	▲2,539	▲18.9%
営業費用	10,579	12,114	▲1,535	▲12.7%
営業利益	281	1,284	▲1,003	▲78.1%
セグメント利益(営業利益+持分法損益)	298	1,300	▲1,002	▲77.1%
経常利益…①	255	1,253	▲998	▲79.6%
特別損益	29	▲191	+220	-
親会社株主に帰属する当期純利益	174	789	▲615	▲77.9%
気温影響…②	▲53	▲94	+41	-
スライドタイムラグ(都市ガス+LNG販売)…③	▲20	588	▲608	-
年金数理差異償却額…④	▲177	▲17	▲160	-
補正経常利益①-(②+③+④)	505	775	▲270	▲34.8%

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
16年度3Q	106.65	44.86	19.5
15年度3Q	121.74<▲15.09>	54.60<▲9.74>	19.6<▲0.1>

<>内は対前年同期増減

年金	運用利回り ※コスト控除後	期末資産 (億円)
16年度3Q累計	1.46%	2,780

期待運用収益率:2%

第3四半期決算としては、2期連続の減収・2期ぶりの減益となっております。

まず、売上高合計は、原料費調整に伴う単価減による都市ガス売上の減少等により前年同期比18.9%、2,539億円減収の、1兆860億円となりました。一方、営業費用は、油価下落影響等による都市ガス原材料費の減少等により、12.7%、1,535億円減の1兆579億円となりました。

この結果、営業利益は前年同期比78.1%、1,003億円減の281億円、経常利益は79.6%、998億円減の255億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、77.9%、615億円減の174億円となりました。

2016年度3Q実績 連結ガス販売量<対前年同期実績>

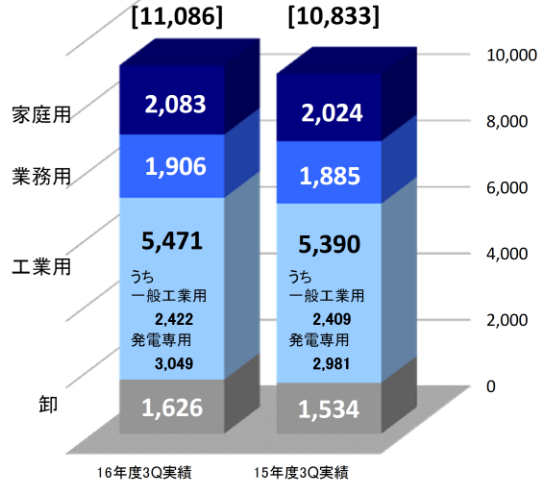
16年度3Q実績 (対前年同期実績)

+253百万m³ (+2.3%)の増加
 [うち気温影響 +79百万m³, +0.7%の増加]

■ 家庭用	+59百万m ³ (+2.9%)
● 気温要因	+47百万m ³
● 日数影響	+10百万m ³
● お客さま件数	+30百万m ³
● その他	▲28百万m ³
■ 業務用	+21百万m ³ (+1.1%)
● 気温要因	+24百万m ³
● 日数影響	+5百万m ³
● お客さま件数	+12百万m ³
● その他	▲20百万m ³
■ 工業用	+81百万m ³ (+1.5%)
● 一般工業用	+13百万m ³
● 発電専用	+68百万m ³
■ 卸	+92百万m ³ (+6.0%)
● 気温要因	+8百万m ³
● その他	+84百万m ³
卸供給事業者需要増等	

ガス販売量:

(百万m³以下四捨五入) 百万m³



お客さま件数(万件)

上段:実績 下段:増減

	16年度3Q実績	15年度3Q実績
お客さま件数(万件)	1,148.8	1,135.2
		+13.6(+1.2%)
	16年度3Q実績	15年度3Q実績
LNG販売量(千t)	750	771
		(▲21)
平均気温(°C)	19.5	19.6
		(▲0.1)

続いて、この決算のベースとなりました、当社の主力製品であるガス販売量の実績についてご説明します。

全体では、他事業者向け供給の需要増および工業用既存設備の稼働増、冬場の低気温による需要増等により、2.3%、2億5千3百万m³増の110億8千6百万m³となりました。

家庭用は、11月、12月の冬場の低気温による給湯・暖房需要の増加により、2.9%増の20億8千3百万m³となりました。

業務用は、夏場後半の高気温による空調需要増および冬場の低気温による給湯・暖房需要増により、1.1%増の19億6百万m³となりました。

工業用は、既存設備の稼働増により、1.5%増の54億7千1百万m³となりました。

他事業者向け供給は、供給先事業者の需要増により、6.0%増の16億2千6百万m³となりました。

■ ビジョンベースガス販売量(単位:百万m3)

	16年度3Q実績	15年度3Q実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	11,086	10,833	+253
			+2.3%
トーリングによる ガス自家使用量	1,474	1,174	+300
			+25.5%
LNG販売量(m3換算)	938	964	▲26
			▲2.7%
合計	13,498	12,971	+527
			+4.1%

4ページには2020ビジョンベースでのガス販売量を掲載しておりますので、ご参照下さい。

2016年度3Q実績 セグメント別売上高・セグメント利益<対前年同期実績>

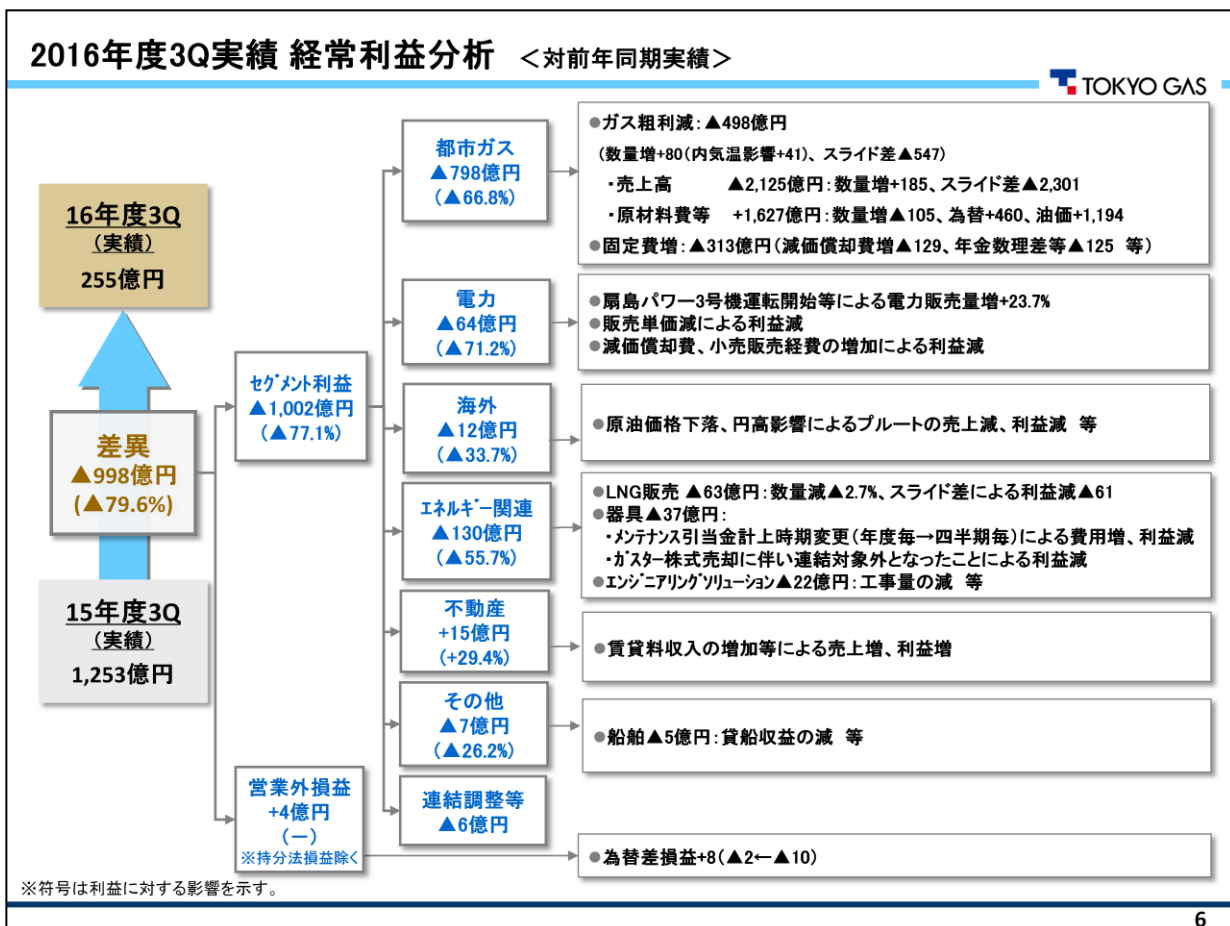
(単位:億円)

	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	2016年度3Q	2015年度3Q	増減	%	2016年度3Q	2015年度3Q	増減	%
都市ガス	7,071	9,182	▲2,111	▲23.0	395	1,193	▲798	▲66.8
電力	1,007	896	111	12.4	26	90	▲64	▲71.2
海外	196	213	▲17	▲7.8	24	36	▲12	▲33.7
エネルギー関連	3,165	3,850	▲685	▲17.8	102	232	▲130	▲55.7
(エンジニアリングソリューション)	738	997	▲259	▲26.0	30	52	▲22	▲42.3
(LNG販売)	655	836	▲181	▲21.7	41	104	▲63	▲60.2
不動産	309	294	15	5.1	66	51	15	29.4
その他	616	551	65	11.8	20	27	▲7	▲26.2
調整額	▲1,506	▲1,589	83	—	▲338	▲332	▲6	—
セグメント合計	10,860	13,399	▲2,539	▲18.9	298	1,300	▲1,002	▲77.1

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
 - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。

5ページではセグメント別の売上高・利益について記載しております。
都市ガスセグメントの利益減少798億円が、全体利益を押し下げております。

2016年度3Q実績 経常利益分析 <対前年同期実績>



6ページではセグメントごとの利益増減要因をお示ししております。

都市ガスセグメントの主な減益要因を申し上げますと、料金の原料費調整制度の適用のタイムラグによるもの約550億円等、となっております。

電力セグメントにつきましては、昨年2月に扇島パワー3号機が稼働開始したことによる販売量の増加は有ったものの、原油価格が下がったことによる販売単価の下落、小売り参入に伴う販売経費や減価償却費といった固定費の増加により64億円の減益となりました。

海外事業セグメントにつきましては、原油価格下落による上流事業の減益の影響で、12億円の減益となっております。

エネルギー関連事業セグメントにつきましては130億円の減益となっておりますが、LNG販売事業におけるスライド差影響による利益の減少、器具メンテナンス費用の計上時期変更による前倒し、エンジニアリングソリューション分野における工事量の減少等が主な要因となっております。

2. 2016年度 通期見通し



2016年度見通し(2016.4.1 - 2017.3.31) <対前回見通し(10/28発表)>

ポイント:増収、利益見通しは変更なし(当期純利益ベース)

(+ - +/-▲は利益に対する影響を示す、億円)

- ・通期の経済フレームは、第3四半期まで確定値を反映し、第4四半期は為替115.0円/\$、原油価格\$55/bblと想定。
- ・上記経済フレームの変動によるガス粗利の減等があるものの、ガス販売量の増加による粗利増および資産売却益等により、利益見通しは変更なし。

売上高	+210	+	都市ガス	(+177:ガス販売量増等)
		+	エネルギー関連	(+40:エンジニアリングソリューション分野の受注増等)
営業利益	▲30	-	都市ガス	(▲62:ガス粗利▲64(うちスライド差▲105、販売量増等+41))
		+	電力	(+6:小売販売経費減等)
		+	海外	(+6:為替影響等)
特別損益	+20	+	保有資産売却益増	

(単位: 億円)

	今回見通し	前回見通し(10/28)	増減	%	前年度実績	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	15,798	15,634	+164	+1.1%	15,436	+362	+2.3%
電力販売量(百万kWh)	12,518	13,007	▲489	▲3.8%	10,959	+1,559	+14.2%
売上高	16,170	15,960	+210	+1.3%	18,846	▲2,676	▲14.2%
営業費用	15,640	15,400	+240	+1.6%	16,926	▲1,286	▲7.6%
営業利益	530	560	▲30	▲5.4%	1,920	▲1,390	▲72.4%
セグメント利益(営業利益+持分法損益)	552	579	▲27	▲4.7%	1,941	▲1,389	▲71.6%
経常利益...①	460	480	▲20	▲4.2%	1,888	▲1,428	▲75.6%
特別損益	90	70	+20	+27.8%	▲330	+420	—
親会社株主に帰属する当期純利益	410	410	0	0.0%	1,119	▲709	▲63.4%

気温影響...②	▲53	▲49	▲4	—	▲173	+120	—
スライドタイムラグ(都市ガス+LNG販売)...③	▲175	▲61	▲114	—	803	▲978	—
年金数理差異償却額...④	▲241	▲241	0	—	▲23	▲218	—
補正経常利益...①-②+③+④	929	831	+98	+11.8%	1,281	▲352	▲27.5%

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
今回見通し *1	108.74	47.40	16.2
前回見通し(10/28) *2	105.13<+3.61>	44.38 <+3.02>	16.1<+0.1>
前年度実績	120.17(▲11.43)	48.73 (▲1.33)	16.6(▲0.4)

*1 第4四半期: 115.00円/\$、55.00\$/bbl *2 上期: 105.25円/\$、43.75\$/bbl
 カッコ内は今回見通しとの増減 下期: 105.00円/\$、45.00\$/bbl

年金	運用利回り ※コスト控除後	割引率		期末資産 (億円)
		年金分	一時金分	
15年度	2.92%	0.236%	0.000%	2,810
14年度	5.57%	0.829%	0.358%	2,810

8ページをご覧ください。今回は、昨年10月末に発表しました前回見通し対比で、増収、利益については親会社株主に帰属する当期純利益ベースで変更なしと見通しております。

見通しの前提となる、1月以降の経済フレームについては、為替レートを前回の1ドル105円から115円に変更、原油価格については前回の1バレル 45ドルから、55ドルへと、見直しております。

売上高は、対前回見通し1.3%、210億円増の1兆6,170億円と見通しております。これは主として、ガス販売量の増加を反映した都市ガスの増収によるものです。

営業費用は、対前回見通し1.6%、240億円増の1兆5,640億円を見通しております。これは主として、都市ガスの原材料費単価の増加等によるものです。

この結果、営業利益は、対前回見通し5.4%、30億円減の530億円、経常利益は4.2%、20億円減の460億円の見通しとなりました。

特別利益を20億円増の90億円とし、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回見通しと同じ、410億円を見通しております。

2016年度見通し 連結ガス販売量<対前回見通し(10/28発表)、対前年度実績>

今回見通し(対前回見通し(10/28))

+164百万m³ (+1.1%)の増加
 [うち気温影響▲13百万m³, ▲0.0%の減少]

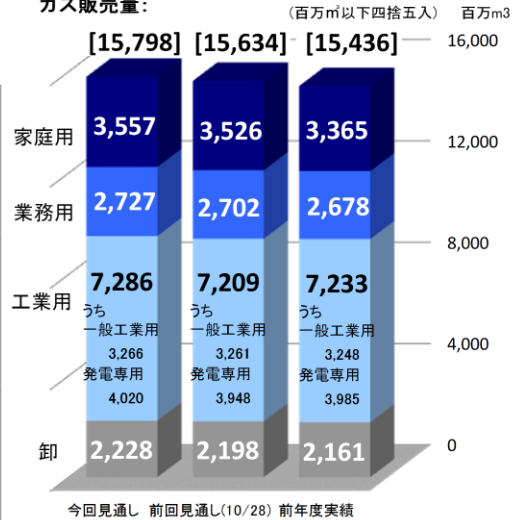
■ 家庭用	+31百万m ³ (+0.9%)
● 気温要因	▲4百万m ³
● 日数影響	▲1百万m ³
● お客さま件数	0百万m ³
● その他	+36百万m ³
■ 業務用	+25百万m ³ (+0.9%)
● 気温要因	▲7百万m ³
● 日数影響	+1百万m ³
● お客さま件数	▲6百万m ³
● その他	+37百万m ³
■ 工業用	+77百万m ³ (+1.1%)
● 一般工業用:	+5百万m ³
● 発電専用:	+72百万m ³
■ 卸	+30百万m ³ (+1.4%)
● 気温要因	▲2百万m ³
● その他	+32百万m ³
卸供給事業者需要増等	

今回見通し(対前年度実績)

+362百万m³ (+2.3%)の増加
 [うち気温影響+214百万m³, +1.4%の増加]

■ 家庭用	+192百万m ³ (+5.7%)
● 気温要因	+148百万m ³
● 日数影響	+2百万m ³
● お客さま件数	+51百万m ³
● その他	▲9百万m ³
■ 業務用	+49百万m ³ (+1.8%)
● 気温要因	+48百万m ³
● 日数影響	▲1百万m ³
● お客さま件数	+22百万m ³
● その他	▲21百万m ³
■ 工業用	+53百万m ³ (+0.7%)
● 一般工業用:	+18百万m ³
● 発電専用:	+35百万m ³
■ 卸	+67百万m ³ (+3.1%)
● 気温要因	+18百万m ³
● その他	+49百万m ³
卸供給事業者需要増等	

ガス販売量:



お客さま件数(万件)

	今回見通し	前回見通し	前年度
お客さま件数(万件)	1,154.4	1,153.7 +0.7(+0.1%)	1,139.8 +14.6(+1.3%)
LNG販売量(千t)	1,062	1,054 (+8)	1,147 (▲85)
平均気温(°C)	16.2	16.1 (0.1)	16.6 (▲0.4)

9ページではガス販売量の見通しをご説明しております。

今回のガス販売量見通しには、工業用の増加など、第3四半期までの実績差を反映し、対前回見通しで1.1%増の157億9千8百万m³と見通しております。

●ビジョンベースガス販売量(単位:百万m3)

	今回見通し	前回見通し (10/28)	増減	前年度実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	15,798	15,634	+164 +1.1%	15,436	+362 +2.3%
トーリングによる ガス自家使用量	1,968	2,062	▲94 ▲4.6%	1,717	+251 +14.6%
LNG販売量(m3換算)	1,327	1,318	+9 +0.7%	1,434	▲107 ▲7.5%
合計	19,093	19,014	+79 +0.4%	18,587	+506 +2.7%

10ページには2020ビジョンベースでのガス販売量を掲載しておりますので、ご参照下さい。

2016年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対前回見通し(10/28発表)>



(単位:億円)

	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	今回見通し	前回見通し	増減	%	今回見通し	前回見通し	増減	%
都市ガス	10,503	10,326	177	1.7	768	830	▲62	▲7.5
電力	1,433	1,441	▲8	▲0.6	30	24	6	27.7
海外	309	269	40	14.9	31	22	9	40.9
エネルギー関連	4,612	4,572	40	0.9	95	89	6	6.7
(エンジニアリングソリューション)	1,115	1,080	35	3.3	42	34	8	21.9
(LNG販売)	909	884	25	2.9	31	39	▲8	▲21.7
不動産	410	408	2	0.5	75	73	2	2.7
その他	885	881	4	0.5	22	20	2	10.0
調整額	▲1,982	▲1,937	▲45	—	▲470	▲480	10	—
セグメント合計	16,170	15,960	210	1.3	552	579	▲27	▲4.7

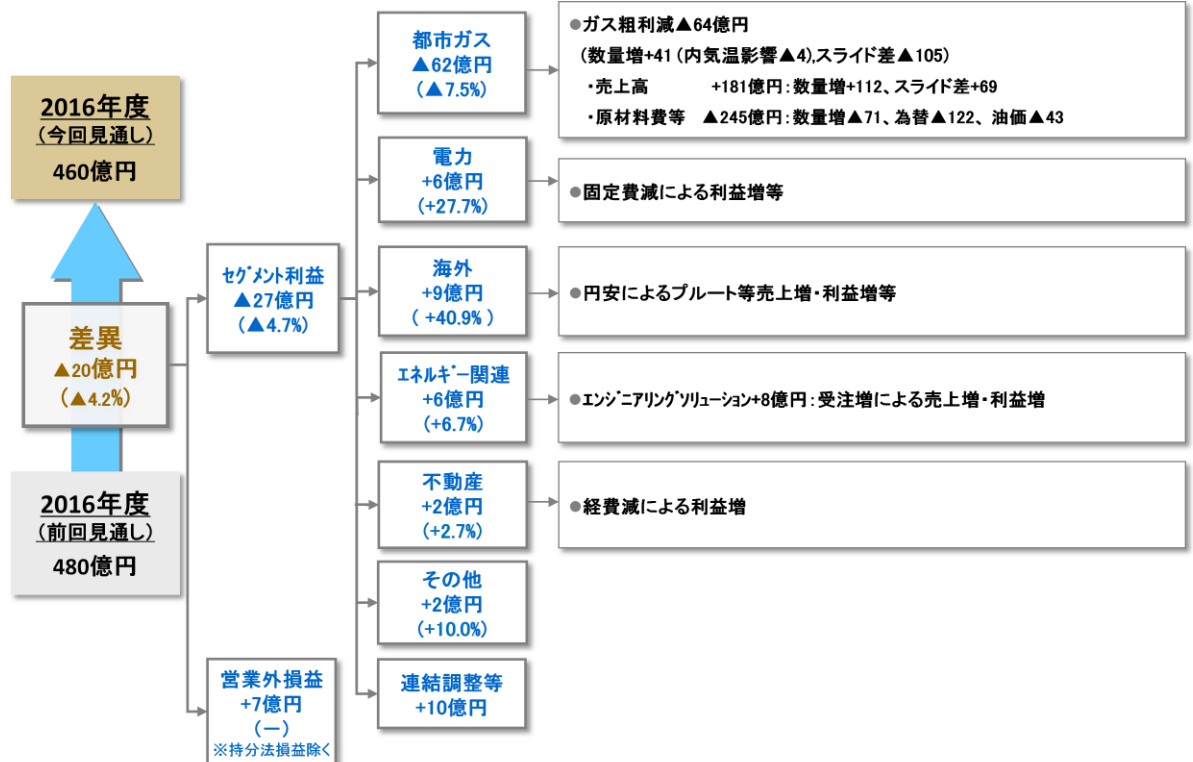
注記: ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
 ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。

11ページには、セグメント別の売上高・利益見通しについて記載しております。

セグメント利益は、都市ガスセグメントの利益減がその他のセグメントの利益増を上回り、全体として27億円減益となっております。

2016年度見通し 経常利益分析

<対前回見通し(10/28発表)>



※符号は利益に対する影響を示す。

12ページではセグメント別に利益増減要因をお示ししております。

都市ガスセグメントは、経済フレーム見直しに伴う利益減が、主な要因となっております。

電力セグメントは、発電所の稼働見直しにより電力販売数量が減少したものの、固定費の減少等により6億円増益と見通しております。

海外セグメントにつきましては、円安により利益を上方修正しております。

エネルギー関連セグメントにつきましては、エンジニアリングソリューション分野における受注増により、利益を6億円上方修正いたしました。

2016年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対前年度実績>

(単位:億円)

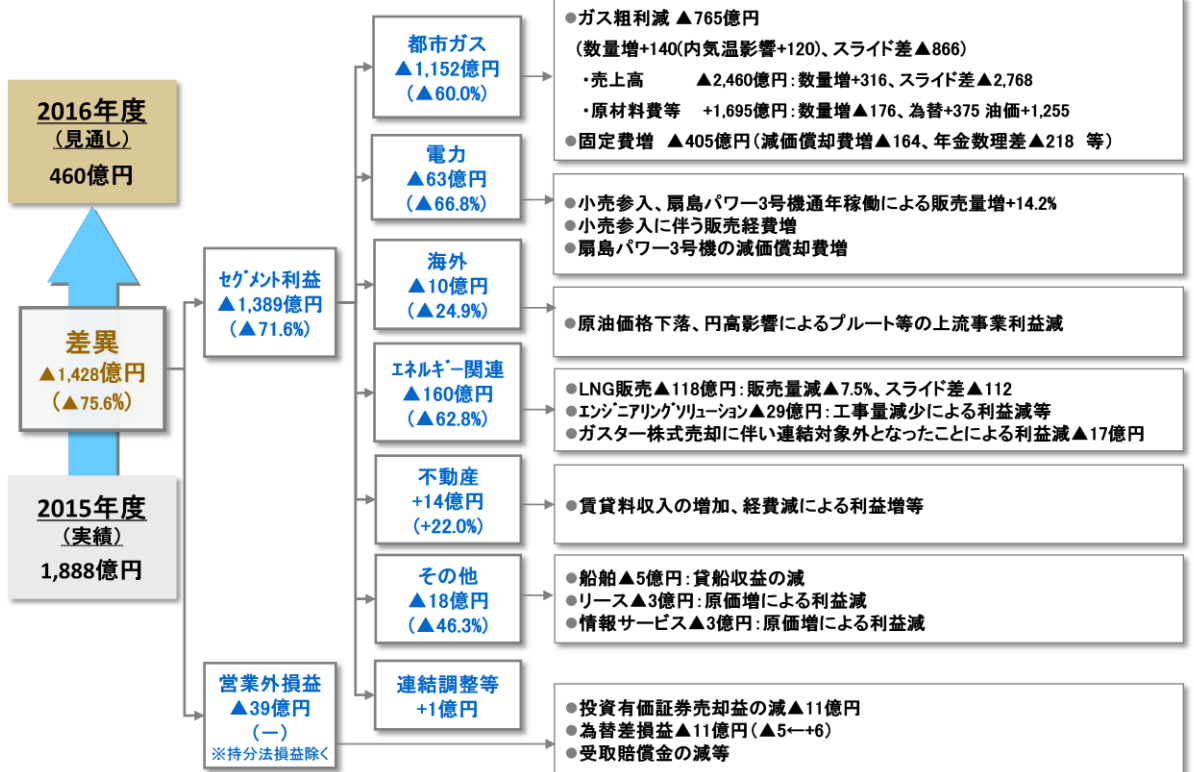
	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	今回見通し	前年度実績	増減	%	今回見通し	前年度実績	増減	%
都市ガス	10,503	12,946	▲2,443	▲18.9	768	1,920	▲1,152	▲60.0
電力	1,433	1,248	185	14.7	30	93	▲63	▲66.8
海外	309	301	8	2.3	31	41	▲10	▲24.9
エネルギー関連	4,612	5,504	▲892	▲16.2	95	255	▲160	▲62.8
(エンジニアリングソリューション)	1,115	1,371	▲256	▲18.7	42	71	▲29	▲41.0
(LNG販売)	909	1,243	▲334	▲26.8	31	149	▲118	▲79.3
不動産	410	393	17	4.2	75	61	14	22.0
その他	885	802	83	10.3	22	40	▲18	▲46.3
調整額	▲1,982	▲2,351	369	—	▲470	▲471	1	—
セグメント合計	16,170	18,846	▲2,676	▲14.2	552	1,941	▲1,389	▲71.6

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
 - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
 - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。

13ページおよび14ページではセグメント別に、今年度収支見通しを前年実績対比でお示ししております。

2016年度見通し 経常利益分析

<対前年度実績>



※符号は利益に対する影響を示す。

主要計数表(連結)

(単位: 億円)

	2016年度 見通し	2015年度 実績	2014年度 実績
総資産 (a)	21,920	22,515	22,576
自己資本 (b)	10,370	11,002	10,695
自己資本比率 (b)/(a)	47.3%	48.9%	47.4%
有利子負債 (c)	7,350	7,157	7,307
D/E レシオ (c)/(b)	0.71	0.65	0.68
親会社株主に帰属する当期純利益 (d)	410	1,119	958
減価償却 (e)	1,630	1,451	1,418
営業キャッシュフロー (d) + (e)	2,040	2,571	2,376
設備投資 (Capex)	2,180	2,320	2,245
ROA: (d) / (a)	1.8%	5.0%	4.3%
ROE: (d) / (b)	3.8%	10.3%	9.2%
TEP	▲182	676	434
WACC	3.4%	3.4%	3.6%
総分配性向	60%程度	60.1%	60.8%

注: 自己資本 = 純資産 - 非支配株主持分
 ROA = 純利益 / 総資産 (期首・期末平均)
 ROE = 純利益 / 自己資本 (期首・期末平均)
 BS関連数値は各期末時点の数値
 営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却 (長期前払費用償却含む)
 総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益

TEP (Tokyo Gas Economic Profit) について
 TEP = NOPAT - 資本コスト (投下資本 × WACC)
 ○株主資本 = 時価総額
 ○WACC算定諸元 (2016年度見通し)
 ・有利子負債コスト 実績金利 1.12% (税引後)
 ・株主資本コスト率
 ・リスクフリーレート 10年国債利回 0.44%
 ・マーケットリスクプレミアム 5.5% β 値 0.75

15ページにはROE等の主要計数見通しを記載しております。

3. 参考資料



原油価格JCCが \$1/bbl 上昇する場合

(単位:億円)

		収支影響時期	
		第4四半期	
変動時期	第4四半期		▲3

円ドルレートが ¥1/\$ 円安になる場合

(単位:億円)

		収支影響時期	
		第4四半期	
変動時期	第4四半期		▲8



＜見通しに関する注意事項＞

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

TSE:9531